

# 禅僧たちの姿と持ち物

小川 太龍

今から七百年ほど前の中国、とある大きな禅寺の門前、荷物を担った行脚僧（雲水）の姿を想像してみてください。彼はこれから入門を願おうとしているようで、身なりを整えています。今回は、当時の禅僧の服装や持ち物について見てみましょう。

まず、彼は袖の広い衣を着ています。現代日本の禅僧が着ているものと、その形はほぼ同じです。これは直裰（直綴）と呼ばれるものです。いかにも専門用語という感じですが、上衣（偏衫）と下衣（裙）を直接、襷い合わせたという意味です（『勅修百

丈清規』卷五「直裰」。なお、現在の中国でも上着を「衫」、スカートを「裙子」と表します。直裰は、宋代には禅僧の正装とされました。そして、腰には腰條という條を帯として締めています。これは、宋代の僧侶の日常が反映された、大徳寺蔵「五百羅漢図」にも見えます。ちなみに、現代日本の禅宗では、この帯を「手巾」とよび、雲水は太いものを締めます。この呼び名と形状は、日本独自のもののようで、江戸時代の曹洞宗僧が次のように述べています。「以前は、三尺手拭を帯として行脚の際

に用いていたが、今時は格好をつけて、『ま  
るき小帯』を作り、これを手巾と名づけてい  
る。本来の意味が失われている」（『洞上僧  
堂清規行法鈔』巻一「僧堂日分行法次第」）。  
つまり手巾とは、字が示すとおり、本来は  
手ぬぐいに類する布を指したのです。

次に、彼の持ち物に目を移しましょう。  
入門するにあたり、身体一つというわけ  
にはいきません。『禅苑清規』（十二世紀・  
最古の禅の規範書）にも、「道場に入ろう  
とするならば、まず道具を揃えなければな  
らない」とあります（巻一「辨道具」）。そ  
れでは、『禅苑清規』が比較的詳しく記述  
していますので、それをもとに見てみま  
しょう（注）。

彼は、右肩に三つの包みを條で結わえて  
掛けています。日本の時代劇などに見える

「振り分け荷物」に似た持ち方でしよう。

「前包」には最も大事な、坐具に包んだ袈  
裟、そして絡子、上衣などを風呂敷のよう  
な包巾で包みます。次に「枕袋」とよばれ

るものに、入浴に関する衣類や手ぬぐい

（浴巾）を包み入れます。そして「後包」

には肌着（襯汗・綿衣）や防寒具・寝具

（綿被）など、直接肌に触れるものを包み

ます。また、これらを包むにあたり、油単

という防水布も用いたことでしょう。そし

て、食器となる鉢（応量器）を囊に入れ左

肩に掛け、さらに、「鞋袋」とよぶものを

左肩からたすきに掛けて、そこに万能ナイ

フでもあるカミソリの戒刀、正式な僧侶の

証明書である度牒を入れた祠部筒などを挟

み込みます。他にも、食事の際に用いる布

巾（淨巾）、敷き布団（布臥單）、枕、水を



〔決定版 清明上河図〕p.40(部分)

入れる浄瓶、茶筒、入門した寺の荷物箱で用いる南京錠のような鑰など、生活用品一式を持参します。これらは行李（物入れ）に入れて背負うこともあったでしょう。そして、内側に聖像・経文・茶器などを具えた山笠を頭にし、右手には杖である拄杖を持ち、鞋を履きます。このような行脚僧の姿は、十二世紀の宋代の首都（開封）の様子を描いた「清明上河図」に見えるそれに

近いかも知れません。

さて、威儀を整えていた彼の準備も整ったようです。今回は、いよいよ入門です。

〔注〕 清規により異なり、水を濾す道具（水濾囊）・数珠などの携行を指示する場合があります。

【参考文献】

『大徳寺伝来五百羅漢図』思文閣出版。二〇一四年。  
西谷功「大徳寺伝来五百羅漢図から復元される僧院生活」『大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌——地域社会からグローバル世界へ——』、九州大学、二〇一九年。  
『決定版 清明上河図』、国書刊行会、二〇一九年。

小川 太龍（おがわ たいりゅう）

一九七八年兵庫県生まれ。花園大学大学院博士課程単位取得、博士（文学）。専門は中国禅思想史・禅宗史。明石市常楽寺副住職・花園大学文学部准教授・同、国際禅学研究所兼任研究所員。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*メ切りは毎月1日です。

## 『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8034 京都市右京区花園木辻北町1  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。

**花園**  
hanazono

「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第74巻 第5号(通巻第873号)  
令和6年5月1日発行(毎月1日発行)  
定価60円

【発行人】野口善敬

【編集人】箱崎善法

【印刷人】古崎良一

【発行所】京都市右京区花園木辻北町1  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400  
電話／075-463-3121

表紙の絵

「小手毬」



新緑の若葉のように、  
青空へ飛びだそう！

絵・元場 葵(もとば あおい)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,620円(税・送料込)です。  
下記の電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。